

新米看護長は奮闘中

東海林順子 [とうかいりん・じゅんこ]

介護老人保健施設ラ・フォーレ天童（山形県）



はじめに

この度「老健仕事人」の執筆に際し、改めて自分の職歴を振り返ってみました。46年前に看護師の資格を取得後、総合病院の手術室・救急外来からスタートし、外科病棟に、その後クリニックでは皮膚科、消化器内科、整形外科、泌尿器科、また訪問看護など多様な経験をしてきました。約20数年前に、現在勤務している医療法人社団斗南会系列の秋野病院（精神科単科）に入職したときは40代でした。それから、約20年間をどっぷりと精神科に浸り、3年前から同法人のラ・フォーレ天童にて奮闘中です。

施設看護師として全く経験がない状態で看護長を引き受けてしまいました。毎日が新鮮で学び多い時間を東奔西走して過ごしています。

施設紹介

当施設は、将棋の駒と温泉で知られる山形県天童市の郊外の、県名産のサクランボやリンゴなどの果樹畑に囲まれた長閑な地域に、三吉神社の鎮守の杜に守られるようにして関連施設とともに建ち並んでいます。

当法人は、前述の精神科の秋野病院（226床）が先駆けて開設され、老健施設「ラ・フォーレ天童」（108床）、内科胃腸科医院、通所リハビリ（30名）、重度認知症デイケア（ポレポレ）、在宅介護支援センター、訪問看護ステーション、温泉利用型健康増進施設（のぞみ）、ケアハウス、グループホーム等々を運営して法人設立後41年を迎えました。開設以来、包括的な医療と介護サービスを地域に提供し、在宅生活を支えてきました。

業務について

看護長としての毎日は、ご利用者の健康状態の把

握、急変時の対応、診察（回診）の補助などの看護業務、職場の調整、人材育成と確保、各委員会への参加などあげればきりがなほ多様な業務に追われています。なんでも屋のごとく、療養棟内を走り回っている毎日です。

前任の看護長は、17年もの長い間ラ・フォーレを守ってきた方で、施設で働く看護師としていねいに指導してくれました。「施設の看護師は、病院の看護師とは違うから」と口癖のように繰り返して話されていました。私は、その違いを探しながら今日に至っています。毎日、看護長としてできることは何かと模索しながら過ごしています。異動した当初は、ご利用者のもとに足を運び、名前と情報を覚えるために苦労しました。

心がけていることは、病院勤務時代と同様に、夜勤帯のカルテを確認して朝食の介助に入ることです。経験上、1日の始まりにご利用者に寄り添い、食事の摂り方を見せていただくことで体調の変化を見つけやすいような気がするからです。

仕事上のテーマ

●奮闘中

3年前、病院から異動してきたときは、現職場については、全く無知でした。心機一転、別世界に来てしまったという状況です。その上、看護長まで引き受けてしまったため緊張の連続でしたが、そのような状況の私を、温かく受け止めてくれたのは施設長をはじめとするスタッフでした。みんな、底抜けに明るくて、よく笑いよく話し人懐っこくて何事にも真摯に対応してくれました。ラ・フォーレの仕組みや歴史などなんでも聞きまわって、夢中で業務をこなしているうちに徐々に私の緊張は解けていきました。

スタッフから、「看護長さ～ん。○○なのよ～。どうかして」と呼び出しの電話があれば、すぐ現場へ駆けつけるスタンスでいます。そのため、いつも療養